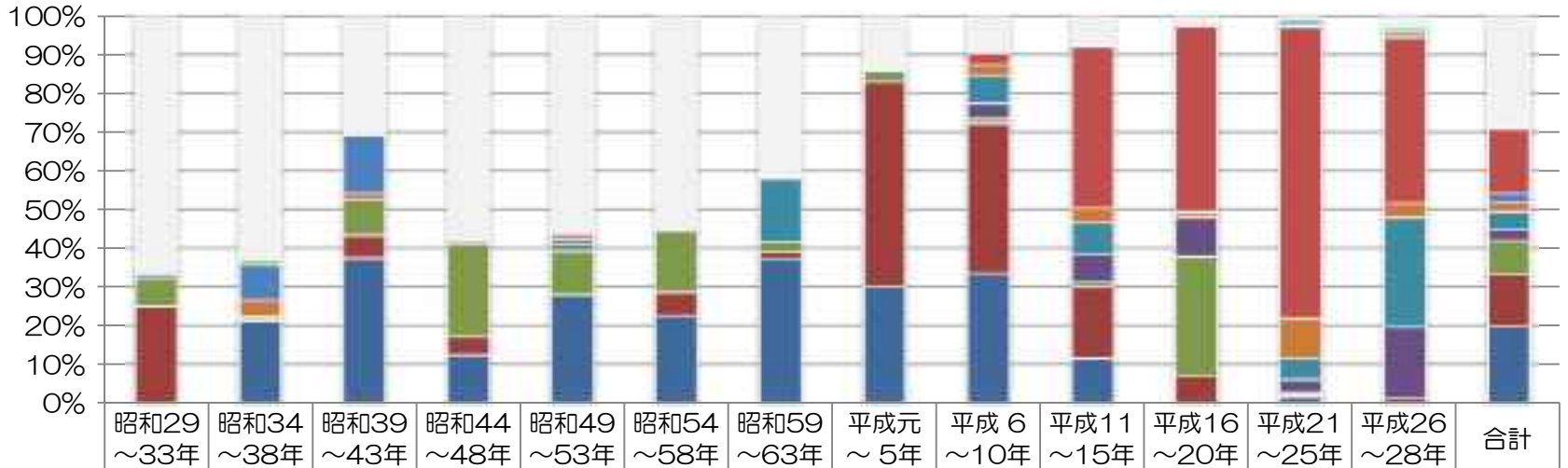


6-2. 原因物質別 食中毒患者数



	昭和29 ～33年	昭和34 ～38年	昭和39 ～43年	昭和44 ～48年	昭和49 ～53年	昭和54 ～58年	昭和59 ～63年	平成元 ～5年	平成6 ～10年	平成11 ～15年	平成16 ～20年	平成21 ～25年	平成26 ～28年	合計
不明	1,327	1,499	1,026	1,118	1,329	912	1,196	290	433	156	89	28	32	9,435
寄生虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	8	51
動物性自然毒	4	0	1	0	22	0	0	0	0	3	2	2	0	34
植物性自然毒	16	29	0	0	4	6	0	0	9	4	1	14	17	100
ノロウイルス									134	857	1,748	2,337	448	5,524
その他の細菌	19	216	504	16	0	0	0	3	0	0	15	0	0	773
病原性大腸菌	0	104	54	0	31	0	0	0	126	78	45	323	39	800
ウエルシュ菌	0	0	0	0	44	0	473	0	332	171	0	169	297	1,486
カンピロバクター							0	0	183	145	368	99	191	986
黄色ブドウ球菌	145	19	309	467	264	265	72	55	58	28	1,129	21	0	2,832
サルモネラ	507	4	194	90	6	98	48	1,095	1,777	378	258	16	15	4,486
腸炎ピブリオ	0	508	1,256	241	659	377	1,068	624	1,543	239	0	53	0	6,568

食中毒患者が最も多い原因物質は「不明」9,435人（28.5%）であるが、判明率が向上し近年は少数となっている。次いで「腸炎ピブリオ」の6,568人（19.9%）であるが、近年は減少しており、代わって「ノロウイルス」5,524人（16.7%）が増加している。

1事件あたりの患者数は、「ウエルシュ菌」が149人で最も多く、「病原性大腸菌」の67人や「サルモネラ」63人も大規模化しやすいので、注意が必要である。逆に「植物性・植物性自然毒」や「寄生虫」は6人と少ない。